

羅 針 盤			方 策	第1回 点検・評価			第2回 点検・評価			
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策	
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 国際交流を推進し、国際理解を深めるとともに、コミュニケーション能力、英語能力を伸ばさせる。さらに、英語の民間試験の積極的な受験を奨励する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>高女グローバル研修in USAの参加者40名を確保し、参加した生徒の中で「行って良かった」と考える生徒の割合が90%以上である。</li> <li>上記以外のグローバル人材育成のための講演会等に満足している生徒が80%以上である。</li> <li>3年の時点で、英検準2級相当以上の生徒の割合が90%以上である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル研修は過去3年の課題を踏まえ、業者・職員間の連携を図りながら、さらに充実した内容にする。発表会やWebを活用し、生徒や教員への研修内容や成果の周知に努める。</li> <li>全てのプログラムの改善や、効果的な情報発信に努める。</li> <li>英語科と連携し、実践的なコミュニケーション能力を育成するため、さらなる授業改善・充実に努めるとともに、学校申し込みの機会を設け、受検を促す。</li> </ul>	B	B (講演満足生徒73.5% 保護者75.2%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>選考、渡航説明会までは無事終了し、今後事前研修が始まる。過去3回の反省点を生かし、USA研修と事前・事後研修を計画し、効果的に実施できるように取り組んでいく。</li> <li>1年の満足度は89%と高い。今後の2年の講演会の内容等工夫したい。</li> <li>現在3年の半数近くが2級、14名が準1級に合格している。10月実施の検定に申し込んだ生徒も多い。英語科と連携して、作文の添削や2次の面接対策を行う。グローバル人材の育成も踏まえ、国際理解授業などにも計画的に取り組んでいく。</li> </ul>	A	A (生 100%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>4年間で作り上げてきた研修の形を元に、毎年反省、引き継ぎ事項を参考に、旅行社と綿密な連絡を取りながら研修内容のさらなる充実を図る。募集人数についても検討が必要。生徒や教員への研修の目的や内容等の周知に今後も努めていく。</li> <li>学年や講師によって、満足度は異なる。内容、講師、実施時期、回数等工夫可。検討中である。</li> <li>全体として、生徒達は非常に意欲的に取り組んでいる。現在3年の約半数が2級、15名が準1級に合格している。(未受験者もあり)。準2級もしくはCEFR A2以上という目標や外部検定試験の意義・妥当性については英語科で情報収集をし、議論していく必要はある。</li> </ul>	
	2 探究活動を通して、主体的に課題解決に当たれる資質と能力を育て、さらに物事の本質をとらえる視点を養い、国際社会で活躍できる力を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な探究・学習の時間(課題研究など)に、主体的に取り組んだと自己評価している生徒の割合が80%以上である。</li> <li>科学探究の取組(サイエンスレクチャー等)に参加する生徒の90%以上が満足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>探究型学習を推進するため、探究活動推進委員会等とも連携し、教員間の共通理解のもと、「課題研究」の内容整備と指導体制の確立、研究成果の評価・表彰・活用等を推進する。</li> <li>サイエンスレクチャーなどの魅力的な希望者によるプログラムを計画し、実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も、生徒が先を見通して研究を進められるように、全職員の共通理解・意思疎通を図り、大学等の関連機関と連携しながら、学校全体の指導内容や指導体制を整えていく。</li> <li>8月のつくば研修の満足度は高かった。3月のサイエンスレクチャーの実施に向け、充実したプログラムを実施できるよう、講師との打合せ、生徒への募集の工夫を行っていく。</li> </ul>		A	A (生 84.0) (保 82.8)	A	A (生 89.5%) (保 84.4%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度よりも生徒の満足度はさらに高くなった。今後も、探究活動推進委員会、関連機関と連携し、育成したい能力や指導内容、方法について教員間の共通理解のもと、学校全体の取り組みとして、さらによいものにしていきたい。</li> <li>3月のサイエンスレクチャーは実施前。今年度も、QST高崎サイエンスフェスタに参加した。今後も、グローバル探究、科学探究とも希望者研修のプログラムを厳選し充実させ、生徒に効果的に周知したい。また、業務の見直し、効率化も図りたい。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>図書の貸し出し数が、年5500冊以上である。</li> <li>課題研究など教育活動に必要な図書が手に入りやすいと感じる生徒が70%以上である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒・職員の図書館利用及び図書の貸し出し数の増加を図るため、きめ細かな図書館運営と魅力ある図書館づくりを心掛ける。(読書カード、職員への購入希望図書調査)</li> <li>課題研究の充実に対応した、図書の整備とレファレンス機能の充実を図る。</li> </ul>		A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月～9月20日までの貸し出し数は2795冊で、昨年同期より738冊多い。生徒一人当たりに換算すると、昨年度が2.2冊、本年度が2.9冊であり、各学年ともに昨年より大幅に増加している。昼休みの読書の呼びかけや図書館だよりでの広報活動などが功を奏したのであろうか。</li> <li>生徒へのアンケート結果を見ると、昨年に比べ9.3ポイント増加している。今後とも可能な限り整備していきたい。</li> </ul>	A	A
		3 新教育課程を円滑に推進し、併せて「新大学入試制度」への対応の充実に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>新学習指導要領に対応した教育課程を完成させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現教育課程が抱えている各教科の問題の解決を図りながら新教育課程完成に向けて各教科の意見を吸い上げ調整する。</li> </ul>	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>夏季休業中にワーキンググループを発足させ、試案を作成した。今後は本校の生徒育成プラン照合しつつ、完成に向けた会議の開催を重ねたい。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>試案を複数作成することができたが、会議の開催を重ねることができなかった。次年度に向け会議の開催を行いたい。</li> </ul>
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	4 自己の明確な目標を持ち主体的に学習する姿勢と継続的な学習習慣の確立を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習に対する生徒の達成感、満足感を持っている生徒が80%以上である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科、学年と連携し授業やLHRを用いて生徒が主体的な学習を維持するための方策を実施する。</li> </ul>	B	B (生 65.1) (保 72.2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度と比較し、生徒・保護者とも若干数値が上がったが、目標に届いていない。さらに主体的・対話的な授業になるよう、改善に努める必要がある。</li> </ul>	B	B (生 75.2) (保 74.6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>達成感、満足感を持って学習に取り組んでいる生徒は増加している。アクティブラーニングや豆テスト、課題等の活用により主体的に学習に取り組めるよう授業改善を図る。</li> </ul>	

羅 針 盤			方 策	第1回 点検・評価			第2回 点検・評価			
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策	
	5	55分授業の導入において、課題に対して「自らの考えを記述し、発表する」授業体制を心がけ、併せて基礎学力の定着及び発展的な学習に取り組むことのできるよう授業を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>55分授業の円滑な運営を行う。</li> <li>生徒の現状を踏まえた上で授業改善に係る研修を年2回以上行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事などを踏まえながら55分授業が有効なものとなるよう円滑に運営する。</li> <li>校内研修委員会と連携し職員研修を充実させ必要な取り組みを行う。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>55分授業の運用は円滑に行われている。</li> <li>授業改善に関わる校内研修委員会はすでに2回実施した。その研修で共有できた課題を本校の教育目標と改めて照らし合わせ、今後の授業改善に活かしていきたい。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>55分授業の運用は円滑に行われている。</li> <li>年2回の研修は既に実施している。今年度中にあと1回の研修を予定しておりが授業が更に効果的なものとなるようその改善をしていく。</li> </ul>
	6	習熟度別授業や個別指導を通して、生徒個々の弱点の強化と学力の一層の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別授業が有効である、先生は丁寧な指導をしてくれると感じる生徒の割合が80%以上である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科内で密な連絡を取り習熟度や個別指導を有効なものとし、きめ細かい指導を実践する。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別授業は概ね効果的に運用できているので、今後は個々の生徒に対して効果的な指導を深化させる必要がある。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別学習が更に効果的なものとなるよう研究、研修を推進する。</li> </ul>
	7	学習意欲の高い生徒の更なる学力の伸長と課題を抱える生徒への学習援助をより具体化する。特に、本年度は早期に学習課題を抱える生徒への課外の義務化と高い目標を持つ生徒への個別指導の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒各自がその現状を踏まえ、明確な目標を持ち、高校生活を送っていると考えられる生徒が80%以上である。</li> <li>将来の夢や希望の実現を支援する取り組みを学校が実施していると考えられる生徒が80%以上である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>LHRや面談など様々な機会を通し、生徒に自らの現状を理解させ、各自の「高めの目標」を設定させる。また、その実現に向け支援を行う。</li> <li>チーム難関大や上位者向けの個別指導を行うとともに、下位者補習・学習会についても学年と協力しながら確実に実施していく。</li> </ul>	B	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>「明確な進路目標」を「志望大学」と捉える生徒が多いため、低学年での達成率が低くなっている。低学年では進路目標を幅広く捉えさせるよう指導したい。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回のアンケートに比べて大きく評価を上げているが、それぞれの学年が1年を通じて確実に成長していることの証だと思われる。今後もこの状況を維持したい。</li> </ul>
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	8	学校中心の生活を確立させ、個々の居場所づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめについては、積極的に認知するようにし、解消率100%とする。</li> <li>部活動や授業活動において、80%以上の生徒が、充実していると回答できるよう学校環境を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「SNSに頼らない人間関係づくり」を推進し、互いの心情に気づいたり、受け入れることのできる生徒を育てる。</li> <li>「未然防止」と「早期発見」に取り組むとともに、発見した場合には組織的に対処する。</li> <li>個々の学校行事に関連性を持たせられるよう配慮し、家庭への連絡手段として、学年通信のこまめな発信に取り組む。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>5/29実施アンケートでは認知0件。1学年LHRで「仲間支えよう」をテーマとしたクラス協議を主体的な取り組みで実施する。</li> <li>教員が生徒の活動を積極的に認め肯定する態度につとめる。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>年3回実施の「いじめ悩みアンケート」で積極的に認知するとともに日頃から、相談しやすい雰囲気作りに努める。相談があれば適切に対応することとし、生徒に安心感を持たせるようにする。</li> </ul>
	9	生徒の小さな変化に気を配り、学級・部活動等の関係者で情報を共有する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒との面談では必ず人間関係について確認するなどし、週1回の学年会議で必ず情報共有を行い組織的に早期対応につとめる。</li> <li>欠席が3回連続した生徒への「声掛け」を実施する。</li> <li>欠席連絡票を活用し、3日連続で欠席した生徒に適切な対応を行い、関係者で情報を共有し組織的な対応を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が気軽に悩みや相談ができたりSOSを伝えやすい人間関係の構築に配慮する。またクラスや部活動を通してコミュニケーション能力を高める。</li> <li>「声掛け」により担任、学年を支援するとともに生徒の情報を共有する。</li> <li>欠席生徒に対し担任、保護者、教育相談、保健環境部等と連携をとり、早期に対応する。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>些細なことでも相談してよいという雰囲気をもったクラス作り、部活動運営に心がけるとともに生徒情報は必ず会議にあげる。</li> <li>欠席をきっかけとして、生徒情報の共有、支援に繋げていく。欠席しそうな生徒に気づき、本人への声掛けと、情報共有を行う。</li> <li>欠席連絡票を活用し、3日連続欠席の生徒への対応を継続し、担任や学年、教育相談部等で情報を共有する。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き相談しやすい雰囲気づくりにつとめるとともに、生徒同士が互いに声をかけたり助け合ったりできるよう、職員も含めて好ましい人間関係構築を図る。</li> <li>それぞれの生徒に最も適した対応を担任、教科担当、カウンセラー、家庭等との情報交換により把握し、支援していく。</li> <li>欠席連絡票を活用して、連続して欠席する生徒の把握と対応を今後も継続し、早期の連携した対応に努める。</li> </ul>
						A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>5/29実施アンケートでは認知0件。1学年LHRで「仲間支えよう」をテーマとしたクラス協議を主体的な取り組みで実施する。</li> <li>教員が生徒の活動を積極的に認め肯定する態度につとめる。</li> </ul>	A	A

羅 針 盤			方 策	第1回 点検・評価			第2回 点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
	10 課題を抱える生徒への対応は、生徒指導・教育相談・スクールカウンセラー・担任・学年等の連携したチームで情報を共有して対応し、外部機関とも連携する。	・学期毎に教育相談週間と、いじめ悩みアンケートを実施することで、不安や課題を抱える生徒へ対応し、相談部の定例会議で情報の共有を定期的に行い、必要に応じて外部機関とも連携する。	・定例の教育相談会議を実施することで生徒情報を共有し、担任、部活動顧問、学年、教育相談部、スクールカウンセラー等による支援チームを組織して対応する。必要に応じて外部機関とも連携する。	A		・学期ごとに、必要に応じて悩みアンケートや面談を実施し、生徒支援に繋げる。定例会議によって、より細かな支援体制を構築していく。	A		・悩みアンケートや相談週間で、悩みのある生徒を把握できたので、今後も活用していく。定例会議や、カウンセリングコンサルテーションでの情報共有により、教職員が日頃からアンテナを張ることができるため、今後も充実させる。
	11 生徒主体の学校行事を通して、自主性、寛容性を育み、リーダーシップとコミュニケーション能力の伸長を図り、協力・協働活動を通して生徒の孤立を防ぐ。	・クラス全体で意欲的に行事に取り組み、それぞれの立場で活動に貢献するなどして、満足している生徒が80%以上である。	・行事への取組を通してリーダーシップを育成するとともに、協力して成果をあげるよう積極的に貢献できる能力を高める。	A (100%)	A (生85.8%) (保94.4%)	・リーダーとなる生徒への支援と全生徒に役割や担当をあてるなど協働して行事に取り組みめるよう計画的に指導する。	A (95.2%)	A (生85.0%) (保92.3%)	・生徒個々の特性を生かして、適材適所で色々な生徒が強みを発揮できるよう計画的に役割分担をおこなうなど配慮する。
	12 目標に向かい他者と協力する体験を通して、思いやりがあり、高い志を持つ、バランスのとれた人材を育成する。	・各生徒組織内の人間関係が健全に保たれ、互いに協力したり支えあっていると感じている生徒が80%以上である。	・他者の特性や能力を鑑みて、適切な助言や支え合いの心を育成するようにする。	A (100%)	A (生91.0%) (保92.3%)	・個々の特性を理解し互いに尊敬の態度を持ってコミュニケーションを推進する。	A (97.6%)	A (生89.8%) (保92.7%)	・職員を含め個性を認め合い、互いに尊敬し合える関係構築につとめる。
	13 生徒個人の、そして部全体の達成目標を生徒自らが設定し、工夫して部活動を運営する体験の機会を作る。	・部活動の内容や成果、教員の指導に満足している生徒が80%以上である。	・部活動と学習の両立や目標に対して友達と励ましあいながら果敢に取り組める力を育む。	A (97.4%)	A (生88.5%) (保89.8%)	・部活動の全体目標と個々の目標を明確にし、互いが貢献し合ったり助け合ったりしながら活動が運営できるように支援する。	A (97.6%)	A (生86.7%) (保88.6%)	・目標設定を明確にし、生徒の要望を理解しながら、より効率的な部活動運営を生徒中心に考える。
	14 技術向上と学習時間確保のための工夫ある練習を計画し、個人と部の目標を達成させる。	・個々の目標を達成できていると実感する生徒が80%である。	・生徒個々のニーズを理解することにつとめ、学習との両立を促す指導を心がける。	A (92.1%)	A (生83.0%) (保82.2%)	・学習塾通いなど生徒個々の取組に配慮するとともに、互いに認め理解し合う関係を構築する。	A (92.9%)	A (生80.0%) (保86.3%)	・部活動の他にも各自が取り組みたい活動があることを全体で理解し、高いに尊重できるよう指導する。
	15 週に一日、長期休業中の一定期間の部活動休養日を設け、生徒の健康と学習の充実を図り、併せて教職員の健康に寄与する。	・適切に休養をとり、健康や学習に配慮し、健全に取り組んでいる生徒が80%以上である。  ・学校保健委員会を年2回以上、安全衛生委員会を4回以上開催する。	・休養日等を計画的に明示し、生徒の健康や学習活動に配慮した活動を行う。  ・学校保健委員会及び安全衛生委員会を計画的に開催し、生徒・職員の健康促進を図る。	B (79.6%)	A (生89.2%) (保84.3%)	・活動方針に則った練習計画を1ヶ月前に提示して、生徒・保護者の理解を得る。	B (78.5%)	B (生91.0%) (保85.2%)	・学校行事等への取組が無理のないよう練習を計画し早めに提示することで、生徒が計画的に学習や生活ができるようにする。
	16 本校の置かれた立場を生徒・教職員ともに理解し、仲間を思いやり、命を大切に作る学校生活を構築する。	・校内を整理整頓し、安全で健康面に十分留意して生活できている生徒が80%以上である。  ・年5回の教育相談だよりを発行する。	・整理整頓や清掃活動に職員生徒ともに熱心取り組む。  ・良好な人間関係の作り方やストレスを減らす方法、互いに尊重する意識の高め合いを育む。	A	B (生93.1%) (保79.4%)	・整理整頓・安全面の留意に関して、保護者の数値が生徒と比べ低い。家庭内も校内と同様に美化に取り組む指導を行いたい。安全面について保護者の意識には、登下校の交通安全等も含まれていると思われる。質問方法の検討を要する。	A	A (生90.9%) (保81.1%)	・校内の整理整頓や安全面の留意についてはおおむね良好だが、今後は、駐輪場や登下校も含めて、ほかの分掌とも協力して、安全面の推進に努めたい。
				A		・教育相談だよりで、保護者や生徒が互いに尊重した学校生活を送れるように、学校行事や時期に合わせたアドバイスや、スクールカウンセラーからのメッセージを伝える。	A		・教育相談だよりの配布、掲示、web掲載により、保護者や生徒を支援することができたため、今後も充実させる。

羅 針 盤		
評価対象	評価項目	具体的数値項目
	17 登下校における交通規則の遵守と安全確認を心がけ、時間と心に余裕を持った行動・生活を確立する。	・年間の自転車事故件数が8件以内である。
	18 学校施設の安全点検、環境整備に努め、事故のない安全な学校環境を整備する。	・各清掃担当者が場所別点検表を月1回提出する。 ・年2回防災避難訓練を実施し、防災意識を高める。  ・校内巡視を毎日、校外巡視を毎週実施する。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	19 個別の進路相談により、志を高く持たせてワンランク上を目指す意識を醸成し、学力の伸長を図る。	・個別の進路相談などにより、自己の現状を認識し、通常の授業以外に土曜講座・課外補習・特訓講座等を受講することで、学力の向上に努めようとしている生徒が90%以上である。
	20「椎樹プラン」を活用し、キャリア教育を通して、早期に進路目標を明確化し、学習への動機付けを図る。	・自己の将来を考え、興味関心や得意分野などを職業と関連づけて進路目標を設定し、その実現に向かい努力している生徒が80%以上である。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	21 学校公開・学校評議員会・学校評価アンケート等を活用し、地域や保護者の視点を生かし、地域に開かれ、より信頼される学校を目指す。	・保護者向けの「公開授業」を年5回程度実施する。  ・中学生向け学校説明会や施設見学会を開催するとともに、学校評議員会は年2回開催する。
	22 学校説明会、中学校訪問等の広報活動に学校全体で計画的かつ積極的に取り組む。	・学校説明会の参加者が1100人(生徒)以上である。
	23 Webページ、学年通信、学校通信、各新聞社等を通して、本校の教育活動の特徴を積極的に公開、情報発信して、広く関係者の理解を深める活動に積極的に取り組む。	・学校行事終了後にWebページを随時更新する。 ・「高女通信」を定期的に発行する。
	24 本校のよさを中学生のみならず小学生にも伝え、早期に本校への志望の確立を働きかけるための広報活動を積極的に進める。	・高女の良さを伝える「学校案内」を充実させ、高女の広報に役立たせる。

方 策
・登校時指導の充実した交通安全教室の早期開催や便りなどの発行により、安全教育の向上を図る。
・場所別点検表を活用し、学校安全点検を定期的に行う。 ・現実に近い形での防災避難訓練を実施し、生徒職員の防災意識を高める。
・労務職員による施錠巡回に合わせ、目視による確認を行うとともに、事務長、事務職員による敷地内外の巡視を実施する。
・生徒面談等の機会を使い、生徒に現状を正しく認識させ、それぞれの講座・課外・補習ごとにターゲットとなる生徒を明示したり、テーマ制を持たせることで、より多くの生徒が参加するように工夫する。
・「椎樹プラン」の中、生徒が充実感を得られる進路行事等を積極的に活用することにより、自らキャリア意識を高め、進路実現のためという認識を持って学習に取り組む姿勢を育成する。
・PTA総会や学年PTA等の機会を活用して授業公開を行う。  ・説明会は、参加者にアンケートを実施し、内容や開催時期などの次年度に向けた説明会の検討データ収集に勤める。
・学校説明会を生徒主体により充実させ、複数回実施する。
・Webページを情報発信の柱と位置づけ、タイムリーな更新とデザインの整備をはかる。 ・「高女通信」を適宜発行し、学校の教育活動を家庭に向けて効果的に発信する。
・「学校案内」を多角的に充実させ、中学生等に高女の教育活動をアピールする。

第1回 点検・評価			第2回 点検・評価		
自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
B		・4月から9月の6ヶ月で事故件数4件でいずれも被害。正しい運転中でも危険予測を怠ることで事故が発生することや加害になた時の重大性を理解させる。	B 1月末計6件		・便りやホームルームで繰り返し交通ルールの理解と遵守の徹底を図るとともに、加害の重大性理解もあわせて指導する。
A		・月1回の場所別点検表を活用し、定期的な安全点検を実施している。 ・5/30に第1回防災避難訓練を実施。第2回は11/1に実施予定。	A		・場所別点検表の活用を今後も継続する。 ・第2回防災避難訓練で今年度も職員による初期消火活動を実施した。来年度は出火場所の検討を行い、より現実に近い訓練を行う。
A		・公仕による日常の校内巡視は実施したが、校舎外巡視について、随時の実施となった。部活動施設を中心に定期的な校舎外巡視に取り組む。	A		・公仕による日常の校内巡視は実施できた。校舎外巡視について、台風や大雨後など危険確認が必要な時期を含め、随時の実施となった。
B	B (生 83%) (保 82%)	・低学年、特に2年生で低い評価が出ているが、保護者からの評価は比較的高い。生徒のニーズに合っているかどうかの検証をしたい。なお、特に3年生では、目標値に達しており、この状況で入試本番に臨ませたい。	B	B (生 85%) (保 89%)	・低学年、特に2年生で低い評価が出ている傾向は、1年間変わらなかった。2年生は、中だるみが出るだけでなく、部活動に課題研究にかなり多忙であることも影響している可能性がある。3年間を見通した中で、より良い方策を探していきたい。
B	B (生 71%) (保 72%)	・LHRでは、なかなか進路学習に時間を割けない現状ではあるが、日々の指導の中で、生徒が将来を考える機会をもてるように工夫していきたい。	A	B (生 77%) (保 78%)	・全体としては、目標にはやや届かなかったが、学年を追うごとに飛躍的に評価が高まっていることから、3年間を通しての取組の結果が現れていると考えられる。今後もこの状況を維持していきたい。
B	A (保 82.3%)	・PTA総会・3年と2年の学年PTAで授業公開を実施できた。残る1学年PTA等でも公開計画を立て実行する。	A		・予定通り年5回の公開授業を行うことができた。更に多くの保護者が参加できるよう検討していく。
A		・中学生向け説明会・施設見学は予定通り実施できた。アンケートを集計し次年度に生かしたい。	A		・中学生向け説明会・施設見学は予定通り実施できた。今後も充実を目指して更に改善を図る。
A		・高校生の生の声を参加してくれた中学生に届ける企画や、案内役を生徒に任せるなど、生徒主体に実施できた。	B (生徒約930名)		・多くの中学生、その保護者に参加してもらったことができた。今後もより良いものとなるよう検討する。
B		・学年通信は定期的に発行されている。高女通信の発行回数を増やし、学校行事終了後は可能な限り早めにWebページの更新を行う。	C		・行事等の終了後、速やかにWebページの更新をすることができなかった。各学年や分掌、また部顧問に依頼し、更新内容の資料を早めに提出してもらおうよう努める。
A	B (57.9%)	・「学校案内」の内容やページレイアウト等について検討し、広く中学生等に配布していく。	B		・概ね高女の広報に役立たせることができたと思うが、より見やすく分かりやすい学校案内のレイアウトや配色などについて、改善点を検討したい。